

## (施策)27 学校教育の充実

施策又は事業名	確認事項又は評価意見(案)等	回答(担当部局が記入)	担当部局
施策全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の目的に「地域の特性を活かしながら、」となっているが、石狩市の地域の特性とはどのようなものですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史・自然・文化、また、石狩湾新港などの都市機能を有する花川、新港地域では、第2次及び第3次産業が盛んな一方で、厚田区・浜益区では漁業や農業といった第1次産業が盛んであるといった、地域ごとの特性があります。</li> </ul>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標の小中学校の教育内容に満足している市民の割合は、PTA役員のアンケートによるとなっておりますが、アンケート対象は何人くらいでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H24の事業評価から実施予定ですが、内容、方法については、現在検討中です。</li> </ul>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代の要請から外国語教育の充実が改善項目にあげられていることを否定するものではないが、国語力や表現力に重点を置く必要があるのではないのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の実施にあたり、各校では、習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用して、課題を解決するための思考力・判断力・表現力をはぐくむ教育、さらに国語科をはじめとする全教科で言語活動を充実させるための教育課程を編成し、実施しているところです。その実施にあたって学校教育主事が教育課程編成届けを点検し、学校訪問・面談、授業参観を年複数回、随時行って指導・助言し、改善を図る取り組みを行っています。</li> </ul>	学校教育課
外部指導者活用事業	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本事業の中期計画を教えてください。</li> <li>2) どのような活動が具体的に教えてください。</li> <li>3) 関係者からの意見や要望等があれば教えてください。</li> <li>4) 平成23年度に改善した事項・重点的に取組んだ事項があれば教えてください。</li> <li>5) 今後の方向で、学生SATの活用について具体的方策を教えてください。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 現教育プランは平成26年度までとなっており、引き続き事業を継続することとしています。</li> <li>2) 学校経営や学習指導等の課題や改善の方向性を明らかにした学校改善プランの具体的方策として、教員免許を有する学力向上サポーターを配置し各教科の指導補助に従事させています。また、算数(数学)や国語の授業で個々の児童生徒のつまづきを解消するためスクール・アシスタント・ティーチャー(学生や地域の方)を配置しています。 また、スキー学習等の体育指導における指導補助や部活動における外部指導者の配置を行っています。</li> </ol>	学校教育課

		<p>3)外部指導者の活用を希望する学校からは、要望する人材(人数)を確保するよう要望があります。また、定期的に活動いただける方を望んでいます。</p> <p>4)これまでへき地校に学生SATを配置することができていませんでしたが、平成23年度に厚田中学校に配置することができました。</p> <p>5)学生SATの方の授業スケジュールにより不定期での活動が多くなる傾向があります。その場合、小中学校で配置スケジュールが立てづらく、思うような効果を得られない場合もあるため、定期的に活動してもらえる人材を確保できるよう大学と協議する予定です。</p>	
	<p>・平成21年の評価時においてSATは学生の確保が年々困難になっていることから、学生以外の人材確保を図るとして平成22年から学力向上サポーターが配置されています。配置人数が4となっていますが、行く学校は固定されているのですか？</p> <p>・また、前回、学生の確保が困難になってきているとのことでしたが、22年、23年の効果などからサポーターを増やす考えがありますか。</p>	<p>・学力向上サポーターについては、配置校を固定して配置しています。</p> <p>・学力向上サポーターの配置については、学生SATと比較し報酬単価が高いため予算確保に課題がありますので、増員については今後検討する予定です。</p>	学校教育課
	<p>・学生SATの確保はどのような手法で計画されてきたのでしょうか。近隣の大学などに依頼されているのでしょうか。(教育大学、北大、藤女子大など。)</p>	<p>・北海道教育大学(札幌校)、藤女子大学(花川キャンパス)に依頼しています。</p>	学校教育課

英語指導助手招致事業	<p>1) 本市の英語教育事業はどのグレードを目指しているかを教えてください。</p> <p>2) 現在の取り組みは、どの程度の結果を得ているか、またはどのようなオーダーでしょうか？</p> <p>3) 育成モデル校の輩出を目指しているのか、漠然とレベルアップであるのか実態をお知らせください。</p>	<p>1) 言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成することを目指しています。内容面では、特に、話すこと・聞くことの活動において効果を高めることを目指しています。</p> <p>2) ネイティブの発音を聞くことによって、イントネーション、区切りなど基本的な英語の音声の特徴を捉え正しく聞き取る能力を高める、またネイティブを相手に、自分が身に付けた初歩的な英語を駆使して、臆さずコミュニケーションを取ろうとする態度を養うこと。</p> <p>3) 石狩市全学校の児童・生徒のコミュニケーション能力を高め、進路の選択、就労に資する力を養う指導を目指しています。</p>	学校教育課
	<p>・成果指標に英語学力が助手の活用前とレベルアップしているかどうかを取り入れるべきではないでしょうか。</p>	<p>・目的が上記に記載したものであることから数値化で成果をはかることは難しいと考えます。活用前との比較は事実上難しい状況にあります。</p>	学校教育課
	<p>・成果指標の英語指導助手を活用した授業日数(小5, 6年)がH22年からH23年倍以上に増えているのはなぜですか。</p>	<p>・小学校5・6年生の英語授業については、新学習指導要領により、平成22年度までは移行期間であり、平成23年度から正式なカリキュラムとなったため。</p>	学校教育課
	<p>・必要なALT数が充分確保されないのは、学校間格差にも関係しますので、充分配慮すべきであると思います。公平性は担保されているのでしょうか。</p>	<p>・各校の学級数に応じて、時間数、回数など公平に配置しています。</p>	学校教育課
学校教育主事配置事業	<p>1) この事業で行政担当課の役割は何ですか。</p> <p>2) 目的に関する要望があれば教えてください。</p>	<p>1) 教育課程に関し、必要な調査、学校に対する必要な情報の提供、指導、助言等を適切に行うことができるように、必要な学校教育主事を配置することです。</p> <p>2) 特にありません。</p>	学校教育課

	<p>・事業内容に関して、各学校に対する学校教育主事の指導・助言を行った実績について</p>	<p>・教育長学校訪問に随行 CRT検査及び全国学力学習状況調査等の結果を分析し、学力の実態及び補充学習の必要な内容・方法等について指導・助言を実施（全21校）</p> <p>・指導主事訪問に合わせて学校訪問 授業参観及び研究会にて授業改善についての指導・助言を実施（全21校）</p> <p>・各校の教育課程について、内容の確認と指導の実施。</p> <p>・校種間連携等、各種事業の進捗状況等の確認と指導・助言（中学校区）</p>	学校教育課
	<p>・学校指導主事（嘱託職員）の人員確保は容易なのでしょうか。容易であれば、速やかに増員出来るよう、議会などに働きかけるべきではないでしょうか。</p>	<p>・現行の2人体制を維持することが望ましいと考えています。現段階では、増員については考えておりません。</p>	学校教育課
<p>奨励プログラム推進事業</p>	<p>1) 具体的な取り組み実績を教えてください。</p> <p>2) 行政担当課と学校との連携について、具体例を挙げて仕組みを教えてください。</p>	<p>・各小中学校では、総合的な学習の時間等において、独自性を生かした特色のある教育活動や今日的な課題に関する教育活動など、さまざまな活動、授業を実施しています。教育委員会では特に「環境教育」「人権教育」「平和教育」「国際理解教育」を奨励プログラムとしています。また、教育委員会では、これらの経費について予算の範囲内で交付金を交付しています。具体的な取り組みとして地域清掃活動、エコキャップ運動やアイヌ文化に関する学習、外国の小中学校との交流学习、厚田、浜益区と旧石狩市域の学校間交流事業、食育、キャリア教育等を実施しています。</p>	学校教育課
	<p>・学校現場ではどのような推進事業が取り込まれ、学校教育課ではどのようなフォローアップを実行されているのでしょうか。具体例を教えてください。</p>	<p>・上記のとおりです。</p>	学校教育課

<p>子供への暴力防止プログラム事業</p>	<p>1) 実施例を教えてください。 2) 地域やPTA関係との連携的取り組みがあったら教えてください。 3) 今後、具体的取り組みに優先度がありましたらそれらを教えてください。</p>	<p>1) 各校に「北海道CAPをすすめる会」から講師を派遣し子ども、大人(保護者、教職員)それぞれのプログラムをワークショップ形式で行っています。 2) 保護者へのプログラムを実施していますが、連携的取り組みは行っていません。 3) 現在小学校3年生を対象に実施していますが、この事業の効果を得るためには今後も継続していくことが重要であると考えています。</p>	<p>学校教育課</p>
	<p>・こどもプログラム、大人プログラムに参加した総人数(延べ数)はどのくらいですか。</p>	<p>・平成23年度の参加者数は、児童562人、保護者75人、教職員118人となっています。</p>	<p>学校教育課</p>
	<p>・児童など若年者を対象にしますので、成果を求めることは困難と考えます。目標値、実績値および達成率をあまり問題視すべきでないと考えます。</p>	<p>・対象学年の全ての児童が参加できるよう目標設定しているものです。</p>	<p>学校教育課</p>
<p>学力向上推進事業</p>	<p>1) 本事業の行政の職務と実施例について教えてください。 2) 行政担当課では、本件の行政評価の指標をどのような観点から結果を出すのですか。評価の有効性の欄の判定は本事業と整合を図れていますか。</p>	<p>1) 各校の取り組みに対する指導・助言。北海道の目標でもある全国平均以上の達成に向けた取り組みの推進、進捗管理。支援のための人員配置。 例として学力向上サポーター等の人的支援、放課後や長期休業中の補充指導の充実推進、習熟度別学習やTT、教科担任制など指導方法の工夫改善の推進。全国学力・学習状況調査、CRTの分析結果に基づく学校への指導・助言。 2) 評価は本事業に対し整合していると考えます。</p>	<p>学校教育課</p>

学校教育主事配置事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年は、名分の配置で1,976,000円となっていますが、平成22から増額となっています。現在は2名が配置されていますか。また、具体的にどのようなことが改善されたのか教えてください。</li> <li>・まだ十分なデータを得ていないと想像しますが、これまでの経緯から、どの程度の効果があったのか、あるいは具体的な効果を期待しているのか、判る範囲で教えてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成21年度までは1名でしたが、平成22年度から2名の配置となっています。2名配置により、小学校、中学校それぞれ専門的に指導できる体制に改善されました。</li> <li>・体制の改善により、学校に対してきめ細やかな指導を行えるようになり、今後、学力向上へ向けて、よりの確な指導・助言を期待しているところです。</li> </ul>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の方向性にある前年度の2次評価の検証結果について教えてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状では、事業費の問題もあり、現行の体制で当面実施することを考えています。</li> </ul>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エキスパートの2名のスタッフはどのような方ですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校の教員免許を持ち、教員の実績のある方です。</li> </ul>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標に目標値の設定がありませんが、数値としてどの位が望ましいと考えていますか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・70%が適当ではないかと考えています。</li> </ul>	学校教育課
体力・運動能力向上推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>1) 行政の観点から実施例を挙げてください。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一校一プランの推進（各校一プラン）</li> <li>・石狩市スポーツまつり小・中学校駅伝大会、小学校低学年たすきリレー競走への全校参加要請などです。</li> <li>・全国体力・運動能力、運動習慣調査の全校実施。（全国へは抽出校のみ。同様の調査を市内全校で行い、全国との比較、経年変化を調査している。）</li> </ul>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標T得点とはどのようなものですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の平均を50とした場合の偏差値をいいます。</li> </ul>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツなどを通じた指導の充実はもっともだと思いません。「家庭との連携が必要」とありますが、父母懇談会を考えているのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力向上の基礎となる、体調維持について規則正しい生活習慣を身につけること等について、各学校で家庭に協力をお願いしています。</li> </ul>	学校教育課

小学校スキー学習支援事業	<p>・平成21年、事業の課題として冬季スポーツにおけるスキーの優先度が低下しており、用具などにかかわる費用負担が重荷となっており、保護者の負担軽減を検討するとしていましたが、検討結果は？</p>	<p>・スキー用具については、就学援助で小学1・4年、中学1年に現物支給しています。学校での再利用等については、保管場所の確保などから、検討しましたが、現在は行われていません。</p>	学校教育課
特別支援教育運営事業	<p>1) 活動の実績を教えてください。 2) 行政担当課が本業務を遂行するに当たり、関係先との連携や取り組みについて教えてください。</p>	<p>1) 相談の実績ととらえさせていただきます。各小中学校からは、多いところで10名前後の児童生徒の相談があります。一人一人について、担任やコーディネーター等と協議しながら学習や学校生活の様子を観察して、保護者の了解を得て発達検査を実施した後に、その子に合った学習内容や方法、環境等について話し合っております。さらには、直接センターに来られる保護者や教職員、電話相談、就学にあたっての教育相談等含めて、延べ回数としましては約200回以上の相談をさせていただいております。</p> <p>2) 子どものニーズに応じて、医療、福祉との連携を十分にとるように配慮しています。医療機関からは医学的なアドバイスを得て、それを参考に支援の方策をたてています。児童相談所、相談事業所等の福祉機関とは養育困難及び虐待が疑われるケースについて家庭支援等を協力しながら行っています。また、就学において判断が難しいケースは、大学教授、医師等による専門家チームを構成して、より専門的なアドバイスを受けています。</p>	教育支援センター

	<p>・支援を必要とする児童生徒及び保護者の支援に対する満足度は。</p>	<p>・個別に支援の必要な児童生徒に関しましては、担任等学校または、保護者からの相談が主になります。特に保護者からの相談には、十分に気持ちに配慮するように心がけています。具体的には、子どもの授業の様子を見た後に保護者と話し合いをもち、さらには発達検査等を通じて子どもの得意な点、苦手な点を確認して支援方法を協議するなどいねいな対応を行っています。結果はすぐには得られず、時間のかかることが多くありますが、学校と一緒に話し合いながら進めており、保護者の相談にはできる限り応えられているとっておりますので、今後もより一層満足していただけるような支援に努めます。</p>	<p>教育支援センター</p>
	<p>・特別な支援を必要とする子どもは、継続した支援が必要と考えますが、現行の1年生を中心とした支援から進級後の支援の考えは？</p>	<p>・1年生を中心に特別支援教育支援員を配置し、生活リズムの安定等を図っております。1年間、子どもの実態を把握した結果、個別の支援を必要とする子どもに関しましては、2年生の担任に十分引き継ぎをすることで対応しております。さらに支援が必要な場合は、学校で配慮して対応することを基本としつつ、場合によっては、学びの場の変更を協議するなど個々のニーズに応じるよう支援しております。</p>	<p>教育支援センター</p>
	<p>・地域コーディネーターはどのような方がされていますか？</p>	<p>・特別支援教育担当の地域コーディネーターは、学校配置で4名、教育支援センターに1名配置しています。資格としましては、幼稚園、小学校、中学校の教諭免許または社会福祉士免許を有し、さらには教育関係の業務経験がある方を採用しています。業務としては、主に配置校の特別支援教育コーディネーターの補助的役割を担い、必要に応じて担任等との打合せを行って個別の支援を行い、ケース会議や保護者面談に同席しております。</p>	<p>教育支援センター</p>



	<p>・今後の方向性にある市民団体とはどのような団体を考えていますか</p>	<p>・児童生徒に必要な支援が受けられるように、「ヨルド」や「えみな」、「ぶろっぷ」などの事業所団体と情報交換しながら方策を協議いたします。また、手をつなぐ育成会などの保護者団体との協力体制をとり、個々のニーズに合わせた支援を行うよう考えております。</p>	<p>教育支援センター</p>
	<p>・支援員の研修会など資質向上の機会がありますか。</p>	<p>・特別支援教育支援員への研修は、全体での研修を年2回程度実施しています。より具体的な支援ができるよう講師には、直接子どもの指導をしている学校現場のコーディネーターの先生等をお願いしています。また、毎月の報告書の記入による支援の評価、自主的な研修への参加等いろいろな機会を設定しています。これからもより一層のスキルアップが図られるよう研修機会の充実に努めて参ります。</p>	<p>教育支援センター</p>
	<p>・子供達を支援する重要なプログラムゆえ、事業を推進することは最重要であると思います。少しでも実行効果があるようなプログラムが、市所管と学校側で協議して構築されることが必要であると考えます。</p>	<p>・今後も在籍児童生徒に関しましては、保護者の気持ちを大切にしながら子どもの特性を理解して、それに応じた内容・方法を工夫した学習活動を行います。また学校生活が楽しく送れるよう早期から対応した就学支援のシステムを構築します。さらには、より教職員が効果的な支援を行えるように研修の機会を設定するなど、現場の声を大切にしながら効果があがるプログラムを提供していきます。</p>	<p>教育支援センター</p>

<p>生徒指導上の諸問題対策事業</p>	<p>1) 本事業の行政担当課・学校・およびPTAとの連携の取り組みについて教えてください。</p> <p>2) 同時に行政担当課の役割・権限・責任について教えてください。</p> <p>3) 有効性の評価は、実態とあっていますか。</p>	<p>1) 子どもの対応すべき問題行動があった場合、関係機関で情報を共有し、対応や役割分担等について協議を行い、実際の支援にあたります。また、家庭での指導が必要な場合も多いことから、学校または子どもとの関係が良好な機関から保護者に接触し、協力して指導にあたっています。</p> <p>2) 教育支援センターでは学校とその他関係機関のつなぎやカウンセラー等の専門家の調整、派遣を行っています。子どもたちが将来しっかりと自立して生活していくため、安心し、落ち着いた学校生活が送れるように支援する責任があると考えています。</p> <p>3) 問題を抱える子どもやその保護者へは時間をかけて丁寧に対応する必要があり、また成果が見えづらいますが、ひとりひとりの状況に応じた支援を行っていくことは大切なことであるとの認識のもと業務を行っています。</p>	<p>教育支援センター</p>
	<p>・「いじめ通報ホットライン」の組織について</p>	<p>・いじめ通報ホットラインは組織ではなく、いじめに関する相談等を受理する電話であり、教育支援センターに設置し、主に地域コーディネーター等専門的知識を有する職員が月曜から金曜の9時から16時まで対応しています。</p>	<p>教育支援センター</p>
	<p>・「いじめ問題」について、これまで法務局との連携した実績はありますか？有る場合はその件数について教えてください。</p>	<p>・これまで法務局といじめ問題に関して連携した事例はありませんが、法務局が設置する人権110番や人権擁護委員に相談等あった場合や未然防止等の取組など状況に応じて積極的に連携し、対応していきたいと考えています。</p>	<p>教育支援センター</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめの認知」後の対応状況について。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめを認知した際には、いじめられた子どもといじめられた子ども及びその子を取り巻く子どもたちから事情を聞いたうえで、いじめられた子どもや保護者には学校全体で守っていくことを伝え、カウンセラー等を活用するなどし、精神的ケアに努めています。いじめた子どもやその子を取り巻く子どもたちには、いじめられた子どもの気持ちを理解できるよう話し合い、いじめは絶対に許されない、人権を侵害する行為であることを認識させる指導を行うとともに自分の行為を見直し、反省を促し、相手のことを思いやることのできる気持ちを育む指導を行うよう学校に対応をお願いしています。</li> </ul>	教育支援センター
小中学校教材教具整備事業	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 関係者からの意見や要望等があれば教えてください。</li> <li>2) 平成23年度に改善した事項・重点的に取組んだ事項があれば教えてください。</li> <li>3) 整備方法の基本的考えを教えてください。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 特にありません。</li> <li>2) 平成24年度から中学校において武道が必修となることから、必要な教材(用具)の整備を行いました。</li> <li>3) 各小中学校の学級数、児童生徒数を元に各校への予算配分額を決定し、その範囲内でそれぞれの学校が必要とする教材を整備しています。</li> </ol>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果指標に関する目標値が予算額を基本に設定していますが、例えば、全道・全国的な数値の比較はできないでしょうか？(客観的な評価判断のため)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データがないため全道・全国との比較はできません。</li> </ul>	学校教育課
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週当たり機器(パソコン)の利用状況はどの程度でしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科の単元によって週当たりの利用状況にばらつきがありますが、1校当たり、年160時間程度利用しています。</li> </ul>	学校教育課

小中学校教育用コンピュータ整備事業	<p>1) パソコンの配置および活用状況を教えてください。</p> <p>2) パソコン活用は、どのレベルを想定されているのですか。</p> <p>3) 学校の教員サイドとの基本的運営についてどのような整合が図られているのですか。</p> <p>4) 関係者からの意見や要望等があれば教えてください。</p> <p>5) 平成23年度に改善した事項・重点的に取組んだ事項があれば教えてください。</p>	<p>1) 各小中学校で1学級分の児童生徒用PCを配置しており、各教科における調べ学習や技術科における情報教育等に活用しています。</p> <p>2) 基本的な操作や情報手段を適切に活用できるようにするための学習活動として、文章の編集、図表の作成や様々な方法での情報収集・調査・比較、情報手段を使った交流、調べたもののまとめ・発表などを各教科において行っています。</p> <p>3) 機器整備(基本ソフト含む)は教育委員会で整備を行っています。また毎年、各校が授業で使用するためのソフトウェアを要望に基づき整備を行っています。学校では、平成22年度に策定した石狩市学校情報セキュリティマニュアルに基づき機器の管理を行っています。</p> <p>4) 特にありません。</p> <p>5) 特にありません。</p>	学校教育課
	<p>・コンピューター1台あたりの生徒数目標値への到達予定は。</p> <p>・定期的に利用されていると思いますが、当然、利用頻度、耐用年数に依存すると思います。平成24年度以降、パソコン台数を倍増する計画でしょうか。</p>	<p>・現在、教育情報化推進検討委員会を設置し、今後の教育情報化について検討中であり、その結果を踏まえて整備を行う予定です。</p>	学校教育課
教育情報化整備事業	<p>・校務用パソコン整備台数が平成23年度目標数より多くなったのは何故ですか。</p>	<p>・H23目標数では整備率が100%に達しない見込みであったため、購入予定であったPCのスペックを見直すなどし、必要台数を確保しました。</p>	学校教育課
	<p>・校務の情報化は本当に教員の負担軽減につながっているのですか？</p>	<p>・校務支援システムについては、今年度中に試験運用校において、検証予定です。</p>	学校教育課

小中学校校舎等改修事業	<p>1) 本事業は単費なのですか、補助があるのですか。</p> <p>2) 優先度の決め方について教えてください</p>	<p>1) 本事業は、単費で実施しています。</p> <p>2) 優先度の決め方については、石狩市予算要望委員会からの要望を基本に、安全面から特に緊急性の高いものを優先的に実施しています。</p>	総務企画課
小中学校施設整備事業	<p>1) 耐震補強の実績と今後の計画について教えてください。</p> <p>2) 石狩市防災基本計画との整合を教えてください。</p>	<p>1) 平成21年度は、花川南中学校の校舎棟と双葉小学校の校舎棟及び屋内体育館、平成23年度は、厚田小学校と浜益小学校の屋内体育館及び花川北中学校の校舎棟及び屋内体育館を実施しました。平成24年度は、聚富小中学校と石狩中学校の屋内体育館を実施します。平成25年度に浜益中学校の屋内体育館の改築と望来小学校屋内体育館の耐震補強を実施する予定で、全て完了する見込みです。</p> <p>2) 子どもたちが多くの時間を過ごす学校施設の安全・安心の視点から早急に耐震化が必要と考え、避難所の指定に関わらず取り組んでおり、特に防災計画との整合性は意識していません。</p>	総務企画課
	<p>・施設の老朽化、改修整備については、安心安全上、早急に実施すべきと考えます。</p>	<p>・学校施設の安全上、耐震補強を優先に実施していますが、耐震完了後は老朽化した施設の整備を計画的に実施する予定です。</p>	総務企画課
スクールバス運行事業	<p>1) スクールバスの運用状況について教えてください。</p> <p>2) 市民のバス利用の減少とバス路線の廃線などが別事業(行政評価)で話題に上りました。学校関係者のみならず過疎地域の併用利用についての考えを教えてください。</p> <p>3) 2) について市民生活部との話し合いや連携について意見を聞かせてください(行政の横串し化)。</p>	<p>1) スクールバスの運用状況としましては、旧石狩地区では、授業日における児童生徒の登下校の平常運行と各学校が計画する社会授業等で使用する特別運行を計画的に行っております。</p> <p>厚田区では、4小中学校(厚田小、望来小、聚富小中、厚田中)の児童生徒の登下校に係るバスを4台(4系統)運行しております。厚田中スクールバス(望来フラトマリ地区~厚田中)・聚富小中スクールバス(聚富地区、</p>	総務企画課

		<p>トーマン団地～聚富小中)・ 望来小スクールバス(望来地区、フラトマリ地区、正利冠地区～望来小)・ 発足混乗スクールバス(発足地区～厚田小・厚田中)</p> <p><b>【便数】</b>          登校1便、下校2便          夏期(小学生のみ:登校1便、下校2便) 冬期(小中学生:登校2便、下校4便)          登校1便、下校2便          登校1便、下校2便(混乗バスは、1日6便)</p> <p>浜益区では3方向(北、南、東)を2系統(北回り、東・南回り=バス2台)で運行しており、この2台は登、下校(各登校1便、下校4便)のみ対応しております。登、下校以外の移動については別に「教育バス」(1台)を配置しております。</p> <p>2)厚田区では、平成18年度をもって厚田、発足間(道々月形厚田線)で運行していた過疎バスを廃止したことから、市では、平成19年度4月から一般の方も混乗可能な「スクールバス」を運行開始し、地域住民の移動手段を確保しております。</p> <p><b>【参考】</b>この他には、次の路線が運行されております。          ・厚田札幌間・・・2民間事業者(国道231号線運行)</p> <p>浜益区では、平成18年度をもって区内を運行する民間バス事業者が撤退したことから、市では平成19年度より一般の方も混乗可能とする「スクールバス運行」(上記2</p>	
--	--	--	--

		<p>台)を開始し、地域住民の移動手段を確保しています。</p> <p>各地区(3方向)から小中学校、診療所、浜益支所、浜益温泉等を周回できる路線を設定</p> <p>(参考)</p> <p>この他には次の路線が運行されております</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜益札幌間～2民間事業者による(1日各1往復)</li> <li>・浜益滝川間～市有乗合自動車運行(ワゴン車)(1日1往復)</li> </ul> <p>3)運行は、厚田区では、業務委託しており、契約は生涯学習部が担当し、運行に関する許認可(運輸局)は市民生活部で担当しており、あわせて地域公共交通会議の事務局を担当しております。</p> <p>なお、混乗バス運行に関しては、市民生活部と十分連携をとって行っております。</p> <p>浜益区では、学校関係者、運行委託業者、浜益生涯学習課、市民生活課等で定期的に連携会議を開催し、路線やダイヤの編成、見直しを確認検討するなど連携強化に努めております。</p>	
	<p>・他をもって替えがたいのであれば、止むを得ないと思います。不可欠な事項であり、継続すべきですが、安心、安全な方法があれば、検討に値するでしょう。無ければ、自助努力により、経費節減に努めることを常に念頭におくべきでしょう。</p>	<p>・現段階では他をもって移動手段を確保することは困難であり、現行の交通体系を維持、確保することが求められております。今後も関係機関で連携を強化し、安心、安全を基本に効率性や経費節減を念頭におきながら業務に当たります。</p>	<p>総務企画課</p>

<p>スクールカウンセラー 設置事業</p>	<p>1) 本件は、保健衛生や他事業との整合色が強いと思われ ますが、それらの連携的取り組みについて教えてください。 2) 有用性評価の基準は、実態と合っていますか。</p>	<p>1) カウンセラーが支援を行うケースは多様であり、本人 への精神的ケアと同時に家庭への対応など福祉的な支援 も必要とする場合も少なくないことから、ケース会議など で市子ども相談センターや児童相談所、保健師等と情報の 共有や支援のありかたについての協議を行い、協力して多 様な支援を提供しているケースもあります。 2) カウンセラーの業務は児童生徒や保護者、学校教職員 等への精神的ケアやアドバイスが主な業務であるため、目 に見えての効果を実感することは難しく、時間も要するた め、なかなか成果は見えづらいですが、複雑で多様な問題 を抱える児童生徒や保護者が増えており、教育的支援だけ では対応が難しくなっていることから、カウンセラーの配 置は効果的であり、今や必要不可欠であると認識しており ます。</p>	<p>教育支援セ ンター</p>
----------------------------	---	--	----------------------



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談件数が年々増加していますが、今後の方向性にある勤務日数を増やす事は可能なのですか。</li> <li>・また、さらに機能が発揮できる環境やシステムについての検討とありますが具体的な方法は。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小中学校に配置しているカウンセラーは4名が道費であり、1名が市費であります。市が雇用しているカウンセラーについては、平成24年度に予算を増額し、勤務時間を増やし、勤務する学校を増やすことができました。道の予算で配置しているカウンセラーについては年々予算が削減されており、勤務日数を増やしていくことは難しい状況ではありますが、スクールカウンセラーの重要性を説明し、勤務日数を増やしてもらえよう働きかけていきたいと考えております。</li> <li>・現在は児童生徒や保護者、教員から相談等があり、それらについて対応することがほとんどですが、日頃から児童生徒の普段の様子を専門家の視点から観察し、アドバイスを行うなどといった未然防止が行える体制を検討していきたいと考えています。</li> </ul>	教育支援センター
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床心理士など人的な補強は必要であるが、人員確保をどうするか、「生徒指導上の諸問題対策事業」などと関連して処理できれば良いのではないかと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援センターでどのような事業を行っているのかわかりやすくするため事業を分けて提示しています。相談等への対応はカウンセラーだけで全てを対応することは難しく、また問題も多様化していることから、教育支援センターには福祉士などの専門家を配置し、生徒の状況に応じて専門家が連携して支援を行っています。</li> </ul>	教育支援センター
不登校児童生徒支援事業	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本事業の担当課の役割・権限・責任は何ですか。</li> <li>2) 推進室事業の実態について教えてください。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育支援センターでは、不登校児童生徒の学校復帰や社会的自立を目的に「ふらっとくらぶ」の実施や学校・保護者等の相談対応、カウンセラー等の派遣を行うなど、不登校児童生徒やその保護者ひとりひとりにきめ細やかな支援を行っていく責任があるものと考えています。</li> </ul>	教育支援センター

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席児童生徒数 92名/21校となっているが年次別の対象者数は。</li> <li>・不登校児童、生徒の人数は。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長期欠席児童生徒数は、H21が94名、H22が82名です。</li> <li>・不登校児童生徒数は、H21が68人(小17、中51)、H22が60人(小13、中47)、H23が65人(小12、中53)です。</li> </ul>	教育支援センター
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の方向性にある市民団体との協働の検討とは？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPOや親の会などと協力しての支援や支援内容等についての情報交流を通して、互いの支援方法を参考にするなど支援の向上により、児童生徒や保護者のニーズに答えられる体制づくりを行います。</li> </ul>	教育支援センター
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に復帰した方は登校できていますか？</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に復帰した場合でもちょっとしたことがきっかけで再び不登校となる児童生徒は少なくありません。もちろん継続して登校できている児童生徒もいますが、児童生徒も保護者も不安は抱えていますので、学校には注意深く見守り、日頃のちょっとした変化にも気を配るようお願いをしています。</li> </ul>	教育支援センター
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふらっとクラブの運営等については、現在、どの程度まで市民団体との協働についてことが進んでいるのでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内のNPO団体とは共通で支援を行っている児童生徒もいるため家庭、NPO、ふらっとクラブで、児童生徒の生活の様子などについての情報共有は欠かさないようにしています。今後は実際に支援を行っている様子を見学や事業への参加を通して、互いの支援の向上や合同事業などを行っていければと考えています。</li> </ul>	教育支援センター
教育振興会活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種研究予算等に、市として補助することは重要であるが、限られた状況の中、経費打ち切りも止むを得ないと考えます。いくらでも支援できるということではないと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育に関する社会の要請が多様化している中、近年、教育課題が増大しており、新たな課題も含め、教職員の研究・研修活動へ一定の支援は必要と考えます。ご指摘の点については、十分留意しながら、必要最小限の経費で事業を継続してまいります。</li> </ul>	総務企画課

学校給食事業	・民間委託（PFI）を含め手法の検討を行なうとしていますが、施設の建て替え時期は？	・先進地の視察を行う等資料を収集している段階で、手法の検討まで進んでいません。	学校給食センター
	・現状の石狩市の学校給食は、非遺伝子組み換えの食材の使用や昨年の福島原発事故による放射能汚染が懸念される17都県の食材は使用しない等、子どもたちに安心して安全な学校給食を提供してきましたが、民間委託によって現状が維持されるのか疑問です。	・今後手法の検討を行う中で、給食の安心・安全が確保されることを条件に進めて参ります。	学校給食センター
学校給食事業 給食センター維持管理 事業	・安心・安全は最重要事項だと思います。努力目標の具体例は何かありますか。	・3施設とも老朽化しており、計画的な修繕や衛生面等に気をつけ食中毒を出さないよう工夫しています。	学校給食センター
	・PFIでどの程度経費節約になるのでしょうか。	・資料等を収集している段階で、積算まで行っておりません。	学校給食センター
奨学金支給事業	・平成22年、23年は支給人数が目標値に達していません。希望者はいますが、対象にならなかった理由は？	・奨学金の支給は、予算の範囲内で支給することとなり、また、応募者について、選定基準と総合的な判定により奨学生を選考しているためです。	学校教育課
	・社会経済状況の悪化から希望者が増えると思われませんが、支給者を増やす考えはありませんか。	・ここ2年ほど増額していますが、奨学金は基金をもとに運用しており、財源にも限度があるため、大幅な増額は困難であると考えています。	学校教育課
中学校体育連盟活動支援事業 中学生文化関係コンクール等参加活動支援事業	・課外活動の支援・援助は、得てして経費節減のあおりを受ける事項かと思います。体育、芸術が世界で高く評価されるためにも、市として十分な支援をすべきだと思いますので、許す限りの応援をすべきと考えます。	・中学校におけるスポーツの振興、競技力の向上並びに文化活動の振興を図るため、事業を継続する予定です。	総務企画課
中学生文化関係コンクール等参加活動支援事業	・対象校が平成22年、23年とありませんが、コンクールに参加できる状況にないのでしょうか。	・以前には吹奏楽部等に交付した実績があるところですが、コンクール等が市内で開催される場合や予選を伴わない場合は、交付対象とならないことから、22・23年度は実績がなかったところです。	総務企画課

	・現状の課題として「実績がなかったが、今後の事業の推移をみる」としてはいますが、必要とされていない事業なのでしょうか。	・平成23年度は、実績はありませんでしたが、中学校における文化活動の振興を図る上で、必要な事業と考えています。	総務企画課
--	---	---	-------